

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						掲載ページ
							64
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		44,211 「のびのび赤ちゃん訪問事業」の総額 本事業はその一部	千円	45,590 千円	施策名	母子保健	担当課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです		
活動計画	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等で直接面接して情報を提供します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)		【活動の状況】	
	専門職による訪問数	5855 件	適切な訪問	6,273 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	全戸訪問により母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標を上げました。 (最終目標と最終年度)						
					順調		
	(最終目標と最終年度)			やや遅れ	順調		
				遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 対象家庭に専門職と地域支援者が協働して訪問し、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行ったため順調と判断しました。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 無償で活動している地域の主任児童委員と、専門職が協働で実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行います。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。 今後も関係機関と連携し、事業を周知することおよび介入することで、より効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	乳幼児健診における問診項目の見直し						掲載ページ
							66
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		25,335 「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	27,275 千円	施策名	母子保健	担当課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	母子保健調査研究事業(小児保健研究会)において、発達障害を早期に見見するための乳幼児健診項目について検討します。また、その結果を踏まえ、関係機関と協議します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標			【活動の状況】	
	問診項目の見直しの推進(検討会の設置)	1回	検討会の実施	3回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	乳幼児健診の項目を見直すことで、発達障害を早期に見見し、支援に繋がります。そのために医療関係者、大学関係者など専門家と検討会を実施します (最終目標と最終年度)						
					順調		
	(最終目標と最終年度)			遅れ	順調		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 検討会で話し合った結果、問診項目の見直しだけでなく、確実な問診等により、発達障害の早期発見の精度を上げることが必要だと判断しました。関係機関(北九州地区小児科医会、乳幼児保健・学校保健・障害児対策委員会など)と検討を行い、1歳6か月児の健診時のマニュアルを見直したので、順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 効果的に実施できるよう関係機関と連携する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
発達障害等発達が気になる子どもの早期発見の精度を上げるため、3歳児健康診査の、健診時のマニュアルの見直しに取組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充						掲載ページ
							66
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		25,335 「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	27,275 千円	施策名	母子保健	担当課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	親子を対象にした遊びや相談に応じる教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	わいわい子育て相談の実施回数	105 回	168 回	104 回	61.9 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要です。 (最終目標と最終年度)						
	わいわい子育て相談の参加者数	366 人	増加	364 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要です。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	<p>【活動の状況】を踏まえた分析</p> <p>活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>発達障害に対して保護者の不安に答えられる相談が求められていることから、開催回数は増やしませんでしたが、保護者の不安の軽減と早期発見及び早期支援ができる体制を目指して、24年度に取り組むべき区の重点課題にあげて、実施できたので順調と判断しました。これからも、関係機関と連携を維持して効果的な事業を実施します。</p>
<p>「経済性」「効率性」の分析</p>	<p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか、また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>医療関係者等の専門職が実施していることから、これ以上のコスト削減は困難です。</p>

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防につながります。発達に気になる乳幼児に対する早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、確実な開催や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達に気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、効果的な事業の推進を図ります。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	障害児保育の充実						掲載ページ
							43
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		179,576 千円	233,401 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて統合保育の可能な障害のある子どもの受け入れを行います。また障害のある子どもの福祉の向上と、保護者の就労を支援するため、関係機関の協力のもと、統合保育の可能な重度の障害のある子どもを直営保育所で受け入れます。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	統合保育の可能な障害児を通常保育だけでなく、延長保育、一時保育での受け入れを行います。また、統合保育の可能な重度の障害児を直営保育所で受け入れます。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	通常保育における障害児の入所状況	157 施設 (100%)	158 施設	158 施設 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	・通常保育で障害児の受け入れを全保育所で行います。 ・統合保育の可能な重度障害児の受け入れを直営保育所で行います。 (最終目標と最終年度) 全保育所、平成26年度						
	特別保育事業における障害児の入所状況	(延長保育) 144 施設 (一時保育) 54	(延長保育) 144 (一時保育) 60	(延長保育) 145 (一時保育) 63 100.0 %	順調 やや遅れ	順調	
・保護者の仕事と子育ての両立支援を図るため、通常保育のみならず特別保育事業においても、全保育所で障害児の受け入れを行います。 (最終目標と最終年度) 全保育所、平成26年度							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成25年3月1日現在、107施設で307名の障害児を受け入れました。直営保育所では重度障害児13名を受け入れました。障害の有無にかかわらず、一緒に保育し、ともに育ち生活する中で、相互の健全な育成を図ることができます。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、なおかつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、障害児保育のニーズは高まると予想されます。有効性は、高いと思われます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在は障害児数に応じた職員配置を、常勤やパートで行っており効率性は高いと考えます。これ以上のコスト削減は困難と考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
本事業は、児童の福祉向上に資するところも大きく、保護者の就労支援、子育て支援を図る上で施策に対する有効性も高く、今後も関係機関との連携、研修、会議等内容を工夫しながら、保育の質の向上を図り、着実に取り組むことが適当だと考えます。今後も継続して事業を実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	親子通園クラスの設置						掲載ページ
							46
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		1,606 千円	3,150 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画					【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 直営保育所へ新たに「親子通園クラス」を設置し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	親子通園クラスの利用者数	2 所	2 所	2 所 100.0 %	大変順調	
	親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談等を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。 (最終目標と最終年度)7ヶ所、平成26年度					
	(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	
				順調		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小倉北区東篠崎保育所と八幡西区黒崎保育所の親子通園クラスで、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ132組、東篠崎保育所は延べ137組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も75%を超え、移行支援としての成果も出ています。全国的にも例のない事業です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経費資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
実施している2ヶ所について検証していきながら、関係機関との連携、PRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援をおこないます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0千円	0千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子ども総合センター

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。		活動実績	下記活動指標の実績以外にも活動実績がある場合は、記入してください。ない場合は「活動結果は下記のとおりです。」など記入してください。		
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	児童相談受付件数	4,628 件	単年度目標設定なし	5,895 件	-	%	大変順調
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)						
	(最終目標と最終年度)						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しており、相談者のニーズに適切に対応していると考えます。また、相談者には適時的確に支援を行っていることから今後とも推進を図ります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
児童相談所(子ども総合センター)は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取組むことが必要です。今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,954 千円	3,027 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的通園施設、入所施設、特別支援学校等で市民が気軽に相談できるような体制を整えるため、障害児療育専門機関による職員への技術的支援を行います。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	今年度も社会福祉法人に委託し、保育所等へ障害児療育の専門職員を派遣します。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	施設一般指導事業実施件数	151 件	維持	161 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)				
					大変順調
(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関わる保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することが出来ました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成25年度から26年度にかけて、障害児支援として児童発達支援センターによる「保育所等訪問支援」事業が順次実施される見込みです。「保育所等訪問」支援事業は主に障害児を対象とする予定ですが、障害かどうかははっきりしない児童などへの支援など、専門スタッフの派遣ニーズは高く、引き続き新事業の導入をみながら実施していきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	専門機関との連携による保育所での発達支援の充実						掲載ページ
							44
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		0 千円	0 千円	施策名	保育サービス	担当課	保育課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。		活動実績	個別支援計画を作成し、障害児とその保護者支援を行う。 職員の資質向上のための取り組み ・研修の充実 ・施設見学・実習の実施
活動計画	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	専門機関と連携した発達障害児の支援				活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。 (最終目標と最終年度)			大変順調	
	保護者支援の取り組み			順調	順調
保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合い、共通理解を深めながら、個別の支援計画を作成し、保護者の悩みなどを支えます。子ども一人ひとりの状況に応じ、専門機関との連携を図ります。 (最終目標と最終年度)			やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組みました。一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施していきます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後とも専門機関との連携を深め、保育所における対応のあり方など研修を通して、発達障害のある子どもへの支援の充実を図ります。関係機関との連携を図ると共に、保育士を対象に発達障害への理解を深め、支援できるよう研修会を実施します。また、発達障害児に関わる他局と連携し、職員間での交流を図り、一環した支援を行える体制作りに取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ
							44
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	保健福祉局
		72,114 千円	70,153 千円	施策名	保育サービス	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】	
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数	163 件	維持	161 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)				大変順調	
					順調	
	(最終目標と最終年度)				やや遅れ	
					遅れ	
					順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関わる保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することが出来ました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成25年度から26年度にかけて、障害児支援として児童発達支援センターによる「保育所等訪問支援」事業が順次実施される見込みです。「保育所等訪問」支援事業は主に障害児を対象とする予定ですが、障害かどうかはっきりしない児童などへの支援など、専門スタッフの派遣ニーズは高く、引き続き新事業の導入をみながら実施していきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,954 千円	3,027 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	【活動の状況】	
	施設一般指導事業実施件数	151 件	維持	161 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）				大変順調	
					順調	
	（最終目標と最終年度）				やや遅れ	
					遅れ	
					遅れ	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関わる保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することが出来ました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
総合療育センターは、再整備される予定です。（平成30年度目標） 今後は、再整備後の体制についても検討を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	医療機関との連携強化						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		936 千円	427 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	医療従事者を対象とした研修会などを実施し、発達障害に対する理解を促進します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	医療従事者のニーズに留意しながら、発達障害児・者の診療に関する研修会などを開催します。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】		
	研修の受講者数	70 人	増加	130 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	発達障害の理解を促進するには、医療従事者が研修を受講することが必要であるため、「研修の受講者数」を活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)			%			
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	前年度実績を上回りました。アンケートの中には「理屈では分かっているけど、どうしても自分の価値観で接することがあり反省している。もう一度基礎から見直そうと思った」など、とても好評でした。本事業を実施することで、発達障害に対する理解を深め、発達障害の診断等を実施できる医療機関が増加するとともに、発達障害者支援センターとの連携強化を図ることができるため、効果は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は、発達障害に関する高い専門性や経験を積んだ事業者に委託しており、経済性及び効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<ul style="list-style-type: none"> 医療の現場においても、発達障害者の特性に適した対応が必要なことから、今後とも継続して実施していきます。 また、発達障害の診断などを市内一円でを行うためには、医療機関や医師との連携が必要であることから、研修会を通じて周知等を行っていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援学校のセンター的機能の整備						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		4,681 千円	7,881 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	特別な支援が必要な幼児児童生徒の様々な課題解決のため、拠点となる特別支援学校のセンター的機能を活用して、他の特別支援学校や関係機関と連携しながら、地域の小・中学校等への助言援助を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	特別支援教育相談センターと連携し、障害のある児童生徒や保護者への効果的な助言援助を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	保育所・幼稚園・小中学校等への助言援助	189 校 園	200 校 園	167 校 園 83.5 %	大変順調		
	特別支援教育相談センターと連携し、効果的な助言援助を行います。 （最終目標と最終年度）25年度 201校園					0 校	3 校
	特別支援相談室の設置 特別支援相談室を設置することで、地域の小・中学校等の相談支援体制が充実します。 （最終目標と最終年度）	順調					

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市内の園、小・中学校の約6割が特別支援学校のセンター的機能を活用しています。特別支援学校がセンター的機能として相談機能を行っていますが、特別支援学校の児童生徒数が増加傾向にあり、教室数の不足が続いているため特別支援学校内の特別支援相談室の設置計画が滞っている状況にあります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在文部科学省の推進事業の中で行っていますが、今後も幼、小、中・高校等では必要度が高いことが予測されるため、費用対効果は高いといえます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
特別支援学校のセンター的機能の中核となる特別支援学校コーディネーターを育成します。特別な教育的支援を必要とする就学前幼児の小学校への円滑な移行支援を、小学校が主体的に行うことを目指します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	新生児聴覚検査事業						掲載ページ
							72
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり	担当局	子ども家庭局
		13,304 千円	14,171 千円	施策名	母子医療	担当課	子育て支援課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	聴覚の障害を早期に発見し療育を開始することで、コミュニケーション形成や言語発達に効果が得られるため、新生児に対して行う聴覚検査費用の一部を助成します。また、検査で聴覚障害が発見された場合には、早期療育に取り組むための支援を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	聴覚の異常を早期に発見し支援することで、言語発達に効果があることから、関係機関と連携を図りながら今後も事業を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】		
	聴覚検査実施件数	6,815 件	適切な実施	6,625 件	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	早期に発見することで早期療育につながることから、聴覚検査は必要です。 (最終目標と最終年度)				大変順調		
					順調		
	(最終目標と最終年度)				やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	<p>【活動の状況】を踏まえた分析</p> <p>活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>平成24年度は、新生児6,625人が検査を受けており、その結果、精密検査が必要な乳児に対して、保健師等が訪問などを実施してフォローアップを行っています。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>聴覚の異常を早期に発見するための検査として有効であり、早期療育に繋げることは、言語の発達に効果があることから、事業の実施は重要です。また、市が行うことで、地域の保健師と関係機関が連携が可能となり、効果的な継続支援に繋がります。医療機関で実施しているため、コストの削減は困難です。</p>

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>聴覚の異常を早期に発見し支援することで、言語発達に効果があり、障害の重症化予防になるため今後も事業を継続します。また、今後も関係機関と連携を図りながら、事業を推進していきます。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	北九州市障害者基幹相談支援センターの運営(旧:北九州市障害者地域生活支援センター)						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		118,818 千円	122,194 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者地域生活支援センター」(ウェルとばたに設置)(平成24年10月1日からは「障害者基幹相談支援センター」以下同じ。)運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。					
活動計画	障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。						活動実績 活動実績は下記のとおりです。
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】	
	障害者地域生活支援センターの相談件数	15,294 件	増加	21,112 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者地域生活支援センターが障害児(者)やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と最終年度)平成29年度 43,669件						
	障害者地域生活支援センターの設置数	1 箇所	1 箇所	1 箇所	順調 やや遅れ	順調	
障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者地域生活支援センターが各区役所窓口との連携を強化し、身体・知的・精神の各障害に対応した適切な相談体制を整備する必要があります。 (最終目標と最終年度)							
100.0 %	遅れ						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	広報活動の促進や、各種研修会を開催することで「障害者基幹相談支援センター」の知名度を上げることができ、相談件数は前年度より大きく増加しました。これにより多くの障害者及び家族等の悩みなどに対応することができたと推測されますので、成果の状況は順調と判断しました。本事業は、障害者が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業です。 (相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、より効率的な相談支援体制の構築を図るため、平成24年10月1日より「障害者基幹相談支援センター」として再整備実施)
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害児(者)及びその家族に対する相談支援は、基本的には職員が直接行うものですが、業務の簡素化を図るため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。しかし、障害者等からの相談内容が専門化・複雑化する傾向があるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成24年10月1日に「北九州市障害者基幹相談支援センター」を設置し、相談窓口の一元化を図りました。平成25年度以降も引き続き、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができるようになります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	おもちゃライブラリーの運営						掲載ページ
							174
コスト	事業費	平成24年度執行額	平成25年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		1,066 千円	776 千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画				【Do】実施	【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害児の障害程度・種別に応じ、療育と教育の一環として、おもちゃを通じて、身体的・精神的発達を促すため、おもちゃの貸出、研究及び相談を行います。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。	
活動計画	東館、西館、と2ヶ所の分館で、おもちゃの貸し出し等を行います。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	【活動の状況】
	おもちゃの貸出点数		381点	-	345点	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「おもちゃの貸出点数」の増加が、利用者の満足度の高い事業である判断基準と考えられることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)					
						大変順調
(最終目標と最終年度)					順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	西館がコムシティに移転した関係で、年度末に一時休館となりましたが、昨年度の9割を越える利用がありました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	おもちゃライブラリーを運営するために設立した無償ボランティア団体に委託しています。したがって最も経済効率が良いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成25年4月、西館がコムシティに移転したことから、今後、西館の利用者の増加が期待されます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育相談センターにおける相談事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		25,384	千円	36,301	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市における特別支援教育の充実を目指し、保護者や学校の相談に応じるため、併設の北九州市立総合療育センターや関係機関等との緊密な連携のもと、巡回相談・教育相談・就学相談・通級相談の各事業を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	巡回相談や教育相談では、専門相談員や専門家チーム(総合療育センター医療スタッフと特別支援教育相談センターのスタッフで構成)が、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の相談において専門的なアセスメントを助言し、効果的な相談を行います。								
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		【活動の状況】		
	巡回相談(専門相談員が行った相談回数)		-	人	50	人	68	人	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	巡回相談に申し込みのあった事例の実態に合わせて専門相談員を同伴し、多面的に実態把握を行い、専門性に裏付けられたアセスメントができるようにします。 (最終目標と最終年度)								
	巡回相談・教育相談(専門家チームが学校を訪問した実数)		6	校	6	校	7	校	大変順調
巡回相談や教育相談において、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の中でも、医療スタッフの専門的なアセスメントが必要な事例は専門家チームを派遣し、効果的な相談を行います。 (最終目標と最終年度)		116.7 %							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	就学相談は、自閉症・情緒障害特別支援学級への申し込み数の増加に対応するために、医師の診察回数を増やしました。通級相談の申し込み数の増加には、相談日を増やすことで対応しました。システムを改善したことで就学相談や通級相談の増加した申し込みへの対応がスムーズにできました。 専門相談員や専門家チームを活用することで、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の相談においても専門的なアセスメントを助言することができ、保護者・学校・園にとって手厚い支援ができています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各相談業務とも相談件数及び、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例が増加しています。費用対効果は高いと言えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
<p>早期支援コーディネーターを配置し、関係機関と連携して就学に向けた幼児期からの教育相談・支援の充実に向けた取組をします。個別の教育支援計画等を活用するなどして、就学前の保育所・幼稚園から指導や支援の継続を図る取組を進めます。特別支援学校のセンターの機能との連携を密にして効果的な相談支援の在り方を具体化します。言語聴覚士など専門家を配置することで複雑化・多様化にも対応できるように進めます。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育を行う場の整備						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		380,843	千円	650,324	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援教育を行う場の整備を行います。				活動実績	特別支援学級の設置校が114校に増え、地域に根ざした特別支援教育の推進が図られました。 東部地域における新設校の基本計画を策定しました。
活動計画		特別支援学級の設置校は25年度までに120校、通級指導教室は全区に設置することを目標としています。 東部地域における新設特別支援学校の基本計画を策定します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】	
	特別支援学級の設置校数			114 校	大変順調		
	特別支援学級設置校数を73校から120校に増すことを目指します。 （最終目標と最終年度）25年度 120校	107 校	110 校				103.6 %
	通級指導教室の設置区			7 区	順調 やや遅れ		
通級指導教室を全区に設置することを目指します。 （最終目標と最終年度）	6 区	7 区	100.0 %			大変順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度に特別支援学級の設置校数は、107校にであったのに対し、平成24年度は、114校に設置することができています。達成度は、100%を超えました。 スクールバスの運行委託について、平成23年度の入札(2校6台)結果を踏まえ、平成24年度は、相乗り解消等の課題の解決を図りました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民の特別支援学級の新設に対するニーズは高く、費用対効果が高いといえます。 市交通局に特命で委託していたスクールバスの運行について、入札を実施したことにより、競争性、効率性が図られました。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
平成25年度は、小・中あわせて21校に特別支援学級を新設することができました。今後も必要に応じて新設を行う予定です。特別支援教育の場の整備を行うことで、多様な学びの場の整備が図れます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する人の配置						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		122,431	千円	159,527	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害のある児童生徒に対する多様な学びの場での適切な指導や必要な支援の充実を図るため、特別支援教育支援員の配置や外部人材の積極的な活用をしています。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	特別支援教育を推進する人の配置に関しては、緊急度の高い状況が続くことが予測されます。特別支援学級補助（市費講師）の配置を検討するなど、引き続き人の配置を継続して行います。（市が直接実施）						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		【活動の状況】
	特別支援教育補助講師の配置校数		49 校	33 校	48 校	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	通常の学級及び特別支援学級等における特別支援教育の充実を目指すため、学校の実情に応じて継続して特別支援教育補助講師の配置を行います。 （最終目標と最終年度）				145.5 %		
	特別支援教育介助員の配置校数		13 校	19 校	19 校	順調 やや遅れ	大変順調
通常の学級に肢体不自由の児童生徒が在籍する小・中学校に対して、特別支援教育介助員を配置し、学習面や生活面での介助を行います。 （最終目標と最終年度）		100.0 %			遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童生徒数がおおむね5人以上で必要な自閉症・情緒障害特別支援学級に対し、特別支援学級補助講師を配置することができました。また、特別支援介助員も必要に応じて、配置ができており、24年度は、19名の配置ができ、23年度より6名増の配置ができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	学校・園からの緊急度が高く費用対効果は大変高いものがあります。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
今後も引き続き、幼、小、中学校の特別支援教育の推進のため必要に応じて人の配置を適切に行い、特別支援教育の充実を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	特別支援教育の理解啓発						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		2,927	千円	3,529	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画				【Do】実施		【Check】評価	
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保護者や市民、関係機関等に、障害のある子どもたちや特別支援教育について理解が深まるようにします。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	今後とも内容を精査し積極的に市民への理解・啓発を行います。(市が直接実施)						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	【活動の状況】	
	公開講座参加人数		179 人	180 人	199 人 110.6 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	幼稚園・保育所・小学校の教職員向けの公開講座を開催し、障害のある子どもの小学校へのスムーズな移行を目指します。 (最終目標と最終年度)						
	理解啓発資料刊行数		4 刊行	4 刊行	4 刊行 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調
保護者向けのリーフレット「通常学級における特別支援教育」等、特に市民・保護者への理解啓発の充実に努めます。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	24年度は理解啓発資料を4種類刊行するとともに活用を機会あるごとに周知しました。また、HPを適切に更新してニーズに応えるようにしました。公開講座では、199人が参加しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ニーズに対応できる発刊物を作成し、さらに周知する必要があり、費用対効果は高いと思います。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
ホームページで刊行物の閲覧ができるように工夫します。また、定期的に更新を図ります。今後も引き続き積極的に市民や保護者への情報を発信していきます。